

第5回 名古屋大学ホームカミングディ

2009.10.24

地域における緩和ケアの新たな取り組み  
「ライトピアサロン」



名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻  
がんプロフェッショナル養成プラン

阿部まゆみ 前川厚子 安藤詳子

# はじめに

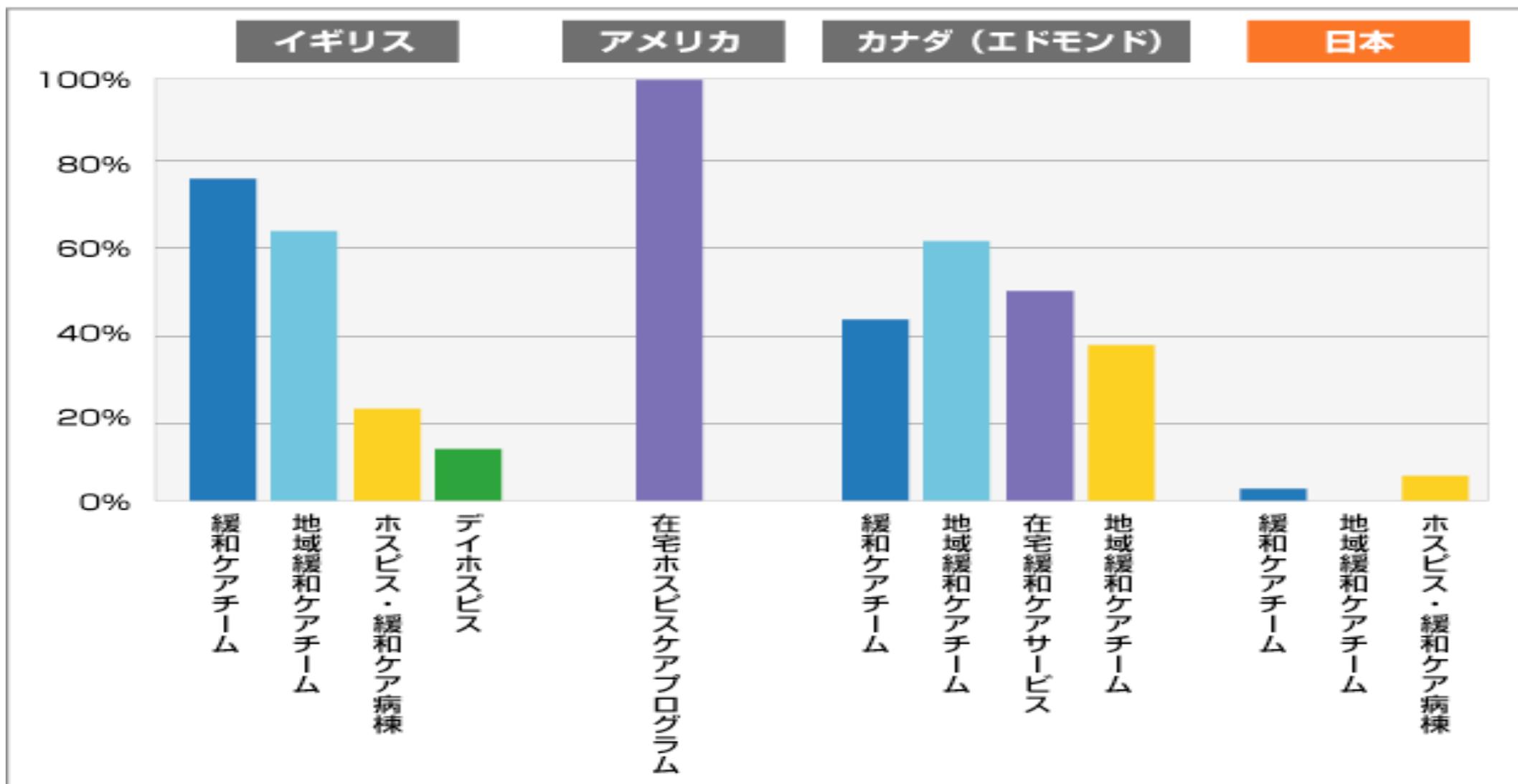
平成19年4月にがん対策基本法が施行され、がん医療におけるすべてのがん患者及び家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上が謳われた。

これらを踏まえ、本学ではがん看護CNSコースの現場開発を目的に、がんサバイバーを支援するライフピスクールの開校と、在宅療養中患者家族を支える「緩和ケアサロン」を開始した。

本学のキャンパスで、がん専門看護師を目指す院生のフィールド開発の一環として実施している。その取り組みを紹介する。

# 緩和ケアサービスの利用率

- 緩和ケアを行っている医療サービスの利用率  
緩和ケアサービスを利用しているがん患者の頻度



厚生労働科学研究費(がん臨床研究事業)

「緩和ケアのガイドライン作成に関するシステム構築に関する研究」班 2007

下山 直人、森田 達也 わが国のがん緩和ケアの現状と行動計画

# 地域における緩和ケアサービス 推進体制

患者及び家族

選択

連携

連携



自宅

地域の病院・診療所

施設緩和ケア



地域の緩和ケア病棟

在宅緩和ケア



かかりつけ医  
訪問看護ステーション  
在宅介護支援センター

連携

名古屋大学大幸キャンパス  
がんを生き抜くライフトピアスクール

名古屋大学健康都市「ライフトピア」構想  
—健康づくりはまちづくり—



- \* ライフトピアスクール  
年4~5回実施
- \* スクールタイトル:
  - ・がんサポート
  - ・がんを生き抜くバイタルパワー
  - ・患者会と情報リテラシー
  - ・病気とうまく向き合う
- \* 交流会,文集づくり
- \* 参加者: H19年 250名  
H20年 103名  
H21年 90名

# ライフトピアサロン

## ライフトピアサロンの目的

- がんと共に生きる患者が何らかの生き甲斐をもち、社会との接点を保ちながらQOLの維持向上を図り、自分らしく生きることを支援する。
- 専門的・技術的支援のもとに、利用者の自律的な力を引き出し、心身のQOLとADLの維持向上を目指す。



ライフトピアサロンは、在宅療養中の人々との交流を通して、自分らしさを取り戻したり、新しい自分を見つけたりする場であり、地域で生き抜くための暮らしのデザインを支援する場所である。

# ライフピアサロン利用者の背景

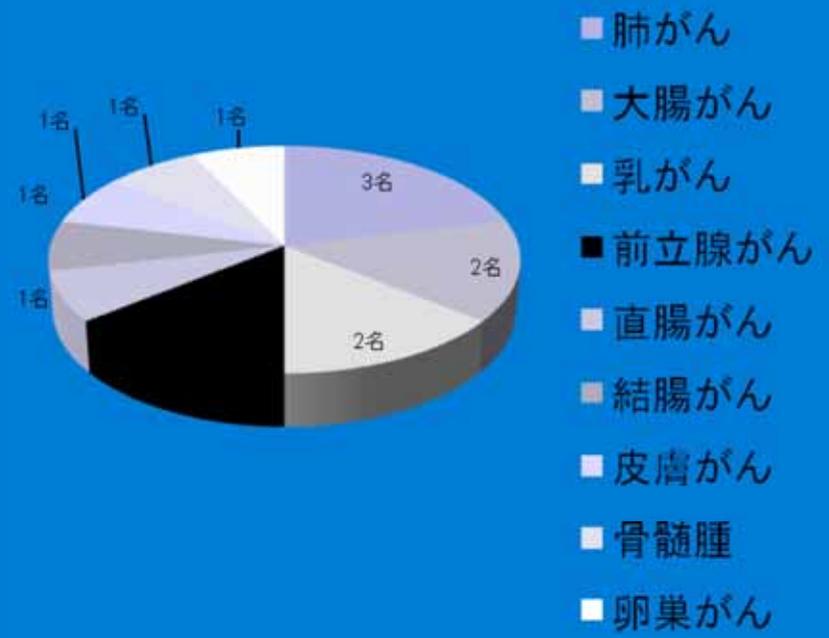
男女比率



疾患状況別比率

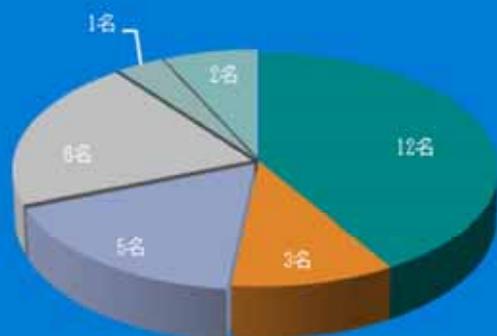


疾患別比率



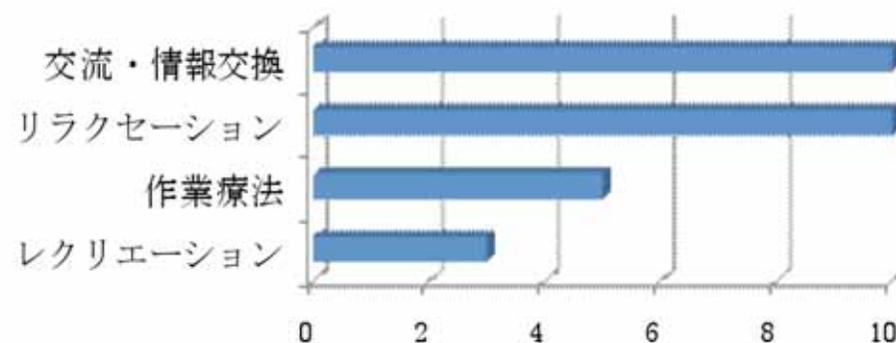
# ライフトピアサロン利用者の背景

参加目的別比率



- ①利用者との交流
- ②身体面の自己管理
- ③不安の緩和
- ④心のケア
- ⑤治療に対する意思決定
- ⑥家族のレスパイト
- ⑦医療情報の収集

プログラム別実施頻度



交流・情報交換内容別割合



- 治療内容・意思決定
- 気づきや心がけ
- 家族・友人について
- サロンへの提案
- 身体面の自己管理
- 身体症状
- 主治医との関係
- ハッピーメモリー
- 医療情報
- 今後の不安

# ライフトピアサロンプログラム

がんサバイバーが心身のケアを受け仲間と語らう場所

症状管理・心身の緩和ケア

個中心とするサービス：一人ひとりの生き方支援

エンパワメント：仲間との交流を深め楽しむ

## 4. レスパイトケア：家族や介護者の負担の軽減

プログラム	症状マネジメント、情報収集、個別相談 心のケア、家族ケア、語りあい、 創作・音楽療法、リラクゼーション、レクリエーション リンパマッサージ、マッサージ
スタッフ	看護師、臨床心理士、がんCNS院生（その他関係スタッフ）
その他	参加費；なし、参加定員；5～6名（1回につき）

# ライフトピアサロン風景

がん緩和ケア研究室

交流・語りの場



# ライトピアサロン

## ● サロンレター



## ● 情報コーナー



## ● 交流ノート



## ● アルバム



## ● 創作



それぞれの思いを形  
に腕を磨く時間

# 地域における支え合いの形

\* 緩和ケアを必要としている患者さんやご家族への橋渡し

緩和デイケア・デイホスピス

緩和ケア病棟併設型



患者サロン  
がん診療連携拠点病院



療養通所介護  
訪問看護ステーション



患者  
と  
家族

ライフピアサロン  
(医系キャンパス型)



ピアサポート・  
地域ボランティア



# おわりに

- ライトピアサロンでは、スタッフと市民ボランティアによる運営サポートと患者同士のエンパワメントにより「がんと折り合いをつけながら生きる力」が促進されている。
- がん看護CNS課程の院生は、サロン活動から緩和ケアサロンの果たす意義が発見でき、新たな学びに繋がっており、がん拠点病院や地域の様々な施設での活躍が期待される。
- キャンパス型緩和ケアサロンは始まったばかりであるが、本学の豊富な人材を投入して更なる発展に繋がりたい。
- 今後は地域に開かれた大学の機能を生かし、医療・保健・福祉の連携の下、緩和ケアサロンをモデルとした地域力を高めることに寄与したい。